

2012年「オーディオ・ホームシアター展」より  
**60周年記念行事「音の歴史館」を開催して**

一般社団法人日本オーディオ協会  
会長・60周年記念事業プロジェクト委員  
校條 亮治

日本オーディオ協会創立60周年を記念する2012年度「オーディオ・ホームシアター展」が盛況のうちに終わりました。今展示会は60周年と云う節目にも当たり、多くのセミナーも展開され内容のある展示会になったと自負しているところです。ちなみに出展社数、入場者数とも昨年を超えることができホットしたところです。とりわけ会場が秋葉原に移って4回目となり、ある程度定着した感もあり、60周年記念に相応しい企画として「音の歴史館」を、オーディオファンは勿論のこと、特に若い人たちに日本が誇ったオーディオの歴史を見てもらい造詣を深めてもらうために企画をしました。担当した私の想いも含めてご報告をいたします。

### ＜楽しい中にも価値ある企画創り＞

開催に当たり、第一の企画意図として「60周年を記念し、オーディオ技術の進化を理解すると共に、楽しさを掘り起こし、オーディオファンの拡大を目指すことを目的とする。」としました。また、特に注釈として温故知新の解釈から、協会が進める「感性価値文化」の拡大に向け「過去を良く知り、新しきを創造する」としました。第二は、魅力ある具体的テーマが重要と考え、一つは見るだけではなく、日本のオーディオ業界が誇った技術力など、背景をしっかりと解説できる、「学芸員」を配置する。二つ目は、解説と共に実演をし、実際に当時の音を聞いてもらうことで「感性価値文化」を味わって頂く。そして三つ目は、「学芸員」に業界きっての技術陣を招聘し、お客様との対話に花を咲かせてもらい、お客様に楽しんで頂くこと。最後に、これらが十分に表現できる実物を集めること、且つ年代別にエポックメイキングな商品を集めることにしました。

実は、日本オーディオ協会は、以前から「オーディオ博物館」を作ることを大きな夢として語られてきました。先人達が世界に誇るオーディオ技術を世に送り出してきましたが、残念ながらそれらが集約されて見るところは有りません。そして各企業においても、あろうことか過去の遺物のように扱われ雲散霧消している事実もあり、大変遺憾で心が痛みます。先人の偉業や歴史に学ばない民族は必ず滅びることを歴史が物語っています。私もそれほど多くの各国を廻ったわけでは有りませんが、欧州などはやはり歴史を重んじる風土として成熟した文化を感じます。

一方で我が国自体や日本のオーディオ企業はどうでしょうか。私が申し上げているのは、過去にしがみついたり、ノスタルジ的に感傷に浸ることを申し上げているのではなく、積極多感に新しいことに挑戦するにも、過去を冷静に洞察、考察する力が必要であることを言いたいのです。

### ＜魅力ある商品集めに汗を掻く＞

さて話が少し横道にそれましたので戻しましょう。今回はこれらの商品提供の協力を会員企業

に求めました。やはり先ほど申し上げましたように、収集作業に大変な労力を要しました。自主提供でしたが先ず、何が、どこに、あるのか判らない状況からのリスト作りから入りました。

特に、1950年代及びそれ以前のオーディオ草創期における商品の選定と実動するかどうかを含めた実物確認では、「金沢蓄音器館」、「ビクターエンターテインメント(株)」、「日本コロムビア(株)」の皆様のお力添えなくしては成り立ちませんでした。特にエジソンが発明した実動する「蝋管蓄音機」、国産初期若しくは一号機である「ビクトロラ」、「ニッポノフォン」など実際に音が出せる状況にメンテナンスされていることは素晴らしいことです。また、時代を表す代表として真空管などの部品では「富士通テン(株)」様に対処頂きました。初期のラジオ受信機や車載ラジオ、名器と云われたスピーカユニットなど今は亡きブランドも多くありました。また、当時の技術をリードしたものを多く集めることができ期待が膨らみました。そして各社のエポックメイキング的な商品としてセットステレオ、スピーカーシステム、アンプ、チューナー、LPプレーヤー、ターンテーブル、カートリッジなどアナログ技術の粋を極めた商品。さらにデジタル時代を代表するDAC、DAP、AVアンプなどデジタル時代幕開けの商品。また、真空管からシリコントランジスタへの転換期の商品。CDプレーヤーやウォークマンの1号機、レーザーディスクプレーヤーなど時代を変えた商品、競合商品としていつも泣かされた強敵商品やユニットなど70点以上が集まりました。



ニッポノフォン 35



ビクトロラ J-51 型



蝋管蓄音機

### ＜貴重な個人所有商品を借りる＞

特に石井信一郎様、佐伯多門様、高松重治様には個人や知人の所有商品までお借りすることができ、本当に感謝を申し上げます。また時代の変遷を理解するうえではメディアは欠かせず SPレコードからSDカードまで出品でき、ご覧になったお客様は、まさにその時代にご自身の人生を映すことができたものと思います。

そしてオーディオ協会事務局も書籍のバックナンバー、エジソンの肉声が入ったCDなど貴重な資料も提供しました。出品総数は100品を超え、



エジソンの肉声が入ったCD(左)  
と協会所蔵の書籍

部屋に入るかどうか別の心配が出てきました。

### ＜大活躍の学芸員＞

課題は解説ができる学芸員の確保です。幸いにも個人会員で我が国スピーカー技術の第一人者と云われた佐伯多門氏、光ディスクが専門の現監事の相澤宏紀氏、スピーカー設計技術の田中博氏、小型スピーカー・ヘッドホン開発の田中康史氏に協力頂くことができ、大車輪のご活躍を頂きました。

お客様もまさか第一人者の方々から直接聞けるとは思わず入場されていたので大喜びでした。往年の名器の前で学芸員とのツーショットのお客様や、サインを要望された方もおられ大人気でした。



学芸員左から、田中博氏、佐伯多門氏、相澤宏紀氏、田中康史氏

### ＜金沢蓄音器館が秋葉原“音展”にやってきた＞

ビッグイベントは金沢蓄音器館の八日市屋館長出演の、エジソン蠟管蓄音器とニッポノフォンによる試聴とトークです。土曜日の昼時1時間という短い時間でしたが、ルーム内特設会場は開始前から関心のあるお客様が来館され、最前部はフロアに胡坐すわりの状況となりました。金沢蓄音器館の全容と活動紹介があり、いよいよエジソン蠟管蓄音器による試聴となり、どんな音が出てくるのか興味津々でした。意外に大きな音が出てきたのには皆さん驚きの声です。次にSPレコードとレコードプレーヤー国産第一号のニッポノフォンの試聴です。ピングクロスビーのホワイトクリスマス、エルビスプレスリーの監獄ロックなど往年の名盤がかけられ、直すわりの欧米人と思われるお客様は大喜びで“ベリーゲー”の連発でした。大変やわらかい音が結構な音量で聴けたことにお客様は、私たちが忘れてきた暖かいものを感じることができたものと思います。

また、金沢蓄音器館は現在600台以上のアナログ蓄音器と、蠟管やSPレコードは3万枚を超える所蔵をしており、これらは貴重な音源であり国会図書館に残すべき遺産としてCD化への協力もしているそうです。

八日市屋館長の名調子もあり、お客様からのリクエストにも応えながら大変短い時間でしたが皆さん大いに満足されました。

さらに6階の出版物及び協会CDの販売ブースでは、金沢蓄音器館にて日本ビクターが開発した大型蓄音器である、クレデンザーで再生した音楽をCDに収録した日本コロムビア制作記念CDを求めるお客様もいました。



八日市屋館長の講演

## ＜往年の名器とエジソンの肉声を聴こう＞

個人出品の中に佐伯氏の DS-251 スピーカーと、高松氏知人所有のトリオ社製の W-45 アンプを使っの試聴コーナーでは、皆さん立ち止まって見るだけではなく、懐かしくも今もって奏でてくれる名器に歓心と、当時のご自身をだぶらせている方が多く見られました。中には名器を写真に撮るご年配の姿も見られ、インタビューをすると、若い時で少ない給料を貯め、なけなしの貯金をはたいて購入したが、実にいとおしい商品であったこと、苦しくとも楽しい時代であったと、良き時代を思いだしながらしみじみと話されたことが印象的でした。やはりオーディオ・音楽は時代と共に生きてきたことと、ご当人の心の中にはいまだオーディオが健在であることを強く感じました。また、エジソンの肉声を聞くコーナーでは皆さん驚きの声を上げていました。エジソンってこんなしわがれ声だったのかと何度も確認されていました。特に家族連れ、カップル、乳母車を押した若いお母さんなど大変興味を持って聞き入っていました。



トリオ社製の W-45A (左)



三菱電機 DS-251 スピーカー (右)

## ＜楽しい同窓会＞

当開催を早くから知られた会員 OB、業界技術者 OB の方々が詰めかけられ、にぎやかな同窓会が連日見られました。時代をリードしてきた自負と、人生の苦楽をオーディオと共に歩んでこられてきた方々だけに、皆さん思いは共有できたのでしょう。当時に思いをはせ、話の輪が広がっていました。会場を出られた後もこれから二次会をやるなどと楽しそうに秋葉原の町に繰り出されたようです。主催者、並びに担当としても、このような贈り物を皆様にできたことは本当に嬉しく心がしびれました。“感動万歳”

## ＜まとめ＞

まずは、出品頂いた会員企業、個人の方々に心から感謝を申し上げます。また学芸員を務めて頂いた方々にも厚く御礼を申し上げます。60周年記念事業の一環として開催したことから展示会の中での3日間という短い期間でしたので足りない部分は多々ありましたが、お客様、関係者とも大いに満足頂けたものと自負をしております。

一方で、このような重要な技術商品の歴史が忘れられてしまうことによる問題点がお客様からも多く寄せられました。昨今、良く聞かれるのは、会員企業の中でもオーディオ技術が軽視され、無くなりつつあること、技術継承がされず国内企業ではオーディオ文化は創れなくなっていることなどが聞かれます。このことは関係他業界も同様であり、国内では本物の音楽産業はもはや成

り立たないとか、スタジオや録音エンジニアも必要されなくなってきたなどを聞きます。日本人が大切にしてきた感性価値文化を自ら破壊してどこへ行くのでしょうか。冒頭にも申し上げたように単に、ノスタルジアで見るのではなく新たな技術を立ち上げるためにも歴史を知る必要があるということです。もちろん突然のひらめきによる技術開発も有りますが、それは宝くじに当たるより難しいと言わざるを得ません。

明日の「日本オーディオ博物館」の設立を夢見て、今後、日本オーディオ協会としては、少なくともこれらの歴史の所在地を明確にしていくことと、せめて文献・写真等で残すことを目標に取り組みたいと考えます。重ねましてご協力いただきました皆様に心から御礼を申し上げます。そして、私たちが忘れかけていた大切なものを届けてくれて有り難う“音の歴史館”。

## 時代区分けと展示品一覧

### (1) 草創期・・・1950年台～以前（畜音と再生技術から放送の始まり）

- ①Edison Standard Phonograph 円筒式蝋管蓄音機 1903年（ビクターエンタテインメント株）
- ②ホーン内蔵型卓上型蓄音機ビクトローラ J-51 型 1930年頃（ビクターエンタテインメント株）
- ③ニッポノフォン 35号〈国産初の蓄音機 4機種中のひとつ〉1910年発売  
(株)日本蓄音器商会（現日本コロムビア株）
- ④当選号ラジオ R-31〈写真展示〉1931年（松下電気器具製作所（National））
- ⑤5級スーパーラジオ R-56 1953年発売（日本コロムビア株）
- ⑥口径 20 cm HiFi スピーカーシステム 8P-W1 1954年  
(松下電器産業株)（National/Pnasonic〈アメリカ向け〉）
- ⑦真空管式車載ラジオ TAR-55 1955年（富士通テン株）
- ⑧エジソンの肉声デモ 2機〈日本オーディオ協会 50周年 CD より〉
- ⑨真空管一式 30本（富士通テン株）

### (2) 成長期・・・1960年台～1980年台（HiFiの幕開けとデジタル化への挑戦）

- ①非同軸 2 ウェイスピーカーシステムダイアトーン 2S-305 型 1958年発売（三菱電機株）
- ②セパレートステレオ PSC-1 1960年（パイオニア株）
- ③アンサンブルステレオ DSC-760 1962年（日本コロムビア株）
- ④ステレオプリメインアンプ W-45A 1960年代（トリオ）
- ⑤ステレオチューナー AF-270 1960年代（トリオ）
- ⑥MM 型ステレオ・カートリッジ第 1号製品 AT-1 1962年発売（株オーディオテクニカ）
- ⑦プリメインアンプ TA-1120 1965年（ソニー株）
- ⑧小型スピーカーシステム Technics1 1965年（パナソニック株）
- ⑨フォノカートリッジ DL-103 1964年〈1970年市販開始〉（株ディーアンドエムホールディングス）
- ⑩非同軸 3 ウェイスピーカーシステムダイアトーン DS-251 1970年発売（三菱電機株）
- ⑪ダイレクトドライブプレーヤー SL-1000 1970年（パナソニック株）
- ⑫ターンテーブル SP-10〈世界初ダイレクトドライブ方式〉1970年（松下電器産業株）

- ⑬ダイレクト・ドライブターンテーブル DP-3000 1972年 (株)ディーアンドエムホールディングス)
- ⑭真空管アンプ SQ38FD 1970年 (ラックスマン(株))
- ⑮オープンリールデッキ A-4010 1965年 (ティアック(株))
- ⑯AM/FM チューナーT-100 1973年度 (Accuphase Kensonic)
- ⑰ステレオコントロール・センターC-200 1973年度 (Accuphase Kensonic)
- ⑱ステレオパワーアンプ P-300 1973年度 (Accuphase Kensonic )
- ⑲スピーカーシステム NS-1000M 1974年 (ヤマハ(株))
- ⑳リニアフェーズスピーカーシステム〈世界初リニアフェーズスピーカー〉 SB-S07 1976年  
(パナソニック(株))
- ㉑レーザーディスクプレーヤ〈民生用光学式ビデオディスクプレーヤ1号機〉LD-1000 1981年  
(パイオニア(株))
- ㉒バキューム式ディスク・スタビライザーAT666 1981年 (株)オーディオテクニカ)
- ㉓CD プレーヤー1号機 CDP-101 1982年発売 (ソニー(株))
- ㉔レコードプレーヤーGT-2000 1982年 (ヤマハ(株))
- ㉕CD プレーヤーCD-63 1982年 (株)ディーアンドエムホールディングス)
- ㉖ステレオ・ディスク・プレーヤー・システム AT727 1982年発売 (株)オーディオテクニカ)
- ㉗デジタルサウンドプロセッサ-DSP-1〈世界初実測温情データ内蔵〉1986年 (ヤマハ(株))
- ㉘DA コンバーターDC-81 1986年度 (Accuphase)

### (3) 第一成熟期・・・1990年台～2010年 (本格的デジタル化の幕開けと進化)

- ①AV アンプ AVX-2000DSP 1990年 (ヤマハ(株))
- ②業務用 DAT レコーダーPD-2 1991年 (フォステクスカンパニー)
- ③オーディオシグナルプロセッサ-AX1000 1991年 (株)ディーアンドエムホールディングス)
- ④CDトランスポート&DA コンバーターDP-S1&DA-S1 1993年 (株)ディーアンドエムホールディングス)
- ⑤デジタルオーディオボード SE-U77 1998年 (オンキヨーマーケティングジャパン(株))
- ⑥SACD プレーヤー1号機 SCD-1 1999年 (ソニー(株))
- ⑦AV アンプ VSA-AX10〈世界初自動音場補正搭載〉2001年 (パイオニア(株))
- ⑧ホームオーディオスピーカーシステム 512〈タイムドメイン理論採用〉2001年 (富士通テン(株))
- ⑨HD オーディオコンピュータ APX-2 2008年 (オンキヨーマーケティングジャパン(株))

### (4) 時代を変えた技術達

- ①口径 16 cmコーン型フルレンジスピーカーP-610 1947年発売〈改良品 1979年〉(三菱電機(株))
- ②ホーンスピーカー5HH17 1968年 (パナソニック(株))
- ③8トラック式4チャンネル・カーステレオ TP-41 1970年 (パイオニア(株))
- ④コンポーネントカーステレオ KP-55、GX-7〈業界初〉1976年 (パイオニア(株))
- ⑤ウオークマン TPS-L2〈初代ウオークマン〉1979年発売 (ソニー(株))
- ⑥4トラック・ポータブル・カセットレコーダーX15〈世界初〉1982年(フォステクスカンパニー)
- ⑦車載用 CD プレーヤーCD-1100〈世界発・83年トヨタ自動車と共同開発〉1985年 (富士通テン(株))

⑧カーCD プレーヤーCDX-1 〈世界初〉 1984年 (パイオニア株)

⑨ミニディスクデッキ1号機 MDS-101 1993年 (ソニー株)

(5) 日本オーディオ協会出版物並びにソフト関係を展示

〈日本オーディオ協会出版物〉

①オーディオ資料 1956年、1957年、1958年、1960年

②JAS 会報 Vol.1

③オーディオ協会誌 Vol.1~Vol.4 Vol.5~Vol.10

④JAS ジャーナル Vol.20、Vol.21

⑤JAS コンファレンス Vol.1 (1986年~1990年)

⑥オーディオ 10年の歩み

⑦オーディオ 50年史

〈ソフト関係〉

①日本コロムビア株より

SP 盤、EP 盤、LP 盤、オープンリールテープ、8パックカートリッジテープ、カセットテープ、DAT テープ、ミニディスク、12cmCD、8cm CD、USB メモリ、SD メモリ、ミニ SD メモリ、メモリースティック DVD、BD

②ソニー株より

CD 一号盤、SACD 一号盤、MD 生ディスク



世界初の CD 1982.10.1 発売 (日本コロムビア株)



SP 盤 (日本コロムビア株)



EP 盤 (日本コロムビア株)